

令和2年度の教育活動等に対する学校評価書

1. 教育目標 自立性のある子供 元気にあそべる子

2. 本年度の重点目標 (学校評価の具体的な目標や計画)

危機管理についてマニュアルを整備しそれぞれの教職員が現状やあり方について理解を深める

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

<※評価点はA(十分に成果があった)・B(成果があった)・C(少し成果があった)・D(成果がなかった)>

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善点	評価点	意見
I 保育の計画性	A	日々の活動に流れを継続させながら、学年ごとの発達段階を配慮した計画・活動になるようにしていった	A	学年だより、クラスだより等により、月ごとのねらいや計画が明記されているため、保護者も現在行われている日々の保育内容が把握しやすい。
II 保育の在り方・幼児への対応	A	健康視診や適切な言葉がけ、保育中の出来事など、職員間の情報交換を密にしながら、保育に努めた。	A	体調変化や保育中の出来事など保護者への連絡も密にしている。
III 保育者としての能力や良識・適正	A	保育者としての自覚と責任を持ち、真面目に努力する姿が見られる。今後も組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めたい。	A	教員間の連携をとり、子供達の保育に熱心である。
IV 保護者への対応	A	9月から「れんらくアプリ」を使用し、保護者との連絡の簡略化を図っている。アプリで連絡すること、手紙、電話等適宜対応したい。	A	研修をしっかりと受けているため、保護者への挨拶や言葉遣い等対応が丁寧である。
V 地域の自然や社会との関わり	B	コロナ禍のため、近隣の中高生との関わりが減ってしまったが、高校生の実習の受入れ等可能な限りかかわりを持てた。	B	ベビーマッサージの講師を招き、子育て支援を行っているが、今年度は3回しか実施できなかったの由来年度は回数を増やせると良いと思う。
VI 研修と研究	B	コロナ禍で研修の中止もあったが、オンラインでの研修に参加したり危機管理について園内で研修・研究を進めた。	B	危機管理について園内で研修・研究を進め来年度は危機管理マニュアルを整備するということで、更に安全管理に努めてほしい。

4. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

園での危機管理についての考え方を統一することで、安全管理の質を向上することができた。更に危機管理マニュアルを整備し、不審者対応や災害時の対応等全職員の共通認識を深めたい。

5. 今後取り組むべき課題

新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、昨年度は中止した行事も縮小や内容を変更して実施していく。地域や近隣の中学校との交流会など、感染対策をとりながらも実施できるよう、計画し開催できるよう努力していきたい。